

NDIRセンサー搭載の 二酸化炭素濃度測定器

自動校正機能搭載

セイコーソリューションズ

セイコーホールディングスグループ（東京都中央区）でシステムソリューション事業を手掛けるセイコーソリューションズ（千葉市）。先月から室内の二酸化炭素濃度を一定間隔で計測・管理して、基準値を超えた場合にアラートを鳴らして換気を促すクラウドサービス「CO2計測による3密回避支援サービス」を始めている。

本サービスは新型コロナウイルス感染症拡大

により、人の集まる飲食店や食堂などで安心して食事ができる環境を作れないか考えたことが提供開始のきっかけだという。

厚生労働省が昨年11月に発表した「冬場における換気の悪い密閉空間を改善するための換気の方法」の資料を参考に、二酸化炭素濃度の計測で適切な換気を促す方法を採用。推奨するNDIR（非分散赤外線吸収法）センサー搭載のシナプスの

濃度測定器「ハザビュ」を用いてサービス提供している。

戦略ビジネス第二本部スマートライフ統括部S.L営業部の石河融課長は「本サービスを



▲ランプの点灯で異常通知



▲室内環境をタブレット端末からも確認できる

「利用することで二酸化炭素濃度が数値化でき、換気作業を見える

化できます」と語った。また、ハザビュには自動校正機能を搭載。使用していくうちに

出てきてしまう数値のずれが修正できるようになっている。そのほかにも計測データをクラウドに蓄積して、各設置箇所の状況を一括

して本部に送るサービスも開始。各拠点でどれだけ換気をしているか目視できる点が魅力だという。

「デイケアセンターなどの人が集まりやすい場所に設置する利用方法のほかに、老人ホームの各居室に設置して二酸化炭素濃度で在否を判断する使用方法も想定しています。利用者が安心して過ごせる環境を作りたい」（石河課長）

サイズは縦・横80、高さ45ミリ。二酸化炭素濃度のほかに温度と

湿度も測定可能。二酸化炭素濃度の測定誤差は±30ppm、100ppmを超えると換気が必要とアラートが鳴る。ネットワーク配線工事が不要で簡単に設置可能。